

1 主題構成表

主題名 友達と一緒に 資料名 星野君と定金君－星野仙－

■ 内容項目B 友情, 信頼

友達と互いに信頼し, 学び合って友情を深め, 異性についても理解しながら人間関係を築いていくこと。

■ 価値の分析

- ・ 友達関係は, 児童にとって最も重要な人間関係の一つであり, 児童の日常の大半を占める学校生活が楽しく充実したものになるか否かを決定するほど心理的に大きな幅を占めるものである。
- ・ 高学年では, 友達同士の相互の信頼関係の下に, 協力して学び合う活動を通して互いに磨き合い, 高め合うような, 真の友情を育てるとともに, 互いの人格を尊重し合う人間関係を築いていくようにすることが求められる。
- ・ 真の友達とは, 単に仲が良いだけでなく, 友達が困っているときにこそ, 手を差し伸べたり一緒に考えたりするものである。ときには厳しい忠告をすることもある。どんなときにも励まし合いお互いに向上していく過程で, 友情はさらに深まっていく。

■ 内容項目から見た児童の実態 (意識)

- ・ 友達と仲良く助け合おうという意識は育ってきており, 係活動で, 友達の呼びかけに素直に応えるなどの姿は見られる。
- ・ 困っている友達や仲間を傷つけたり傷つけられている友達に気付いた時, すぐに助けようと行動に移すことができる自信和もって言える児童ばかりでない。

(要因)

- ・ 事前アンケートの結果から, 傷ついている仲間を助けられない理由として, 「自分も傷つくかもしれないから。」 「本当に仲が良くないと助けられない。」 という回答があった。
- ・ 仲間のことを真剣に思いやり, 助け合って行動する良さを実感する経験が十分でない。

■ 資料の分析

- ・ この資料は, 4つの場面で構成されている。行動が不自由な定金君との友情を深めていく様子を感じとらせたい。
- ・ 筋萎縮症という病気の定金君を, 星野君が学校に送り迎えしようとする。(第1場面)
- ・ 友達も加わり, 定金君を背負い登下校する毎日が続いた。校内でも二人はいつも一緒だった。(第2場面)
- ・ 星野君は, 定金君が修学旅行に行かないことを知り, 一緒に行けるよう周りの大人にお願いする。(第3場面)
- ・ 定金君を思う星野君の働きによって修学旅行に定金君も行くことができた。(第4場面)
- ・ 一緒に修学旅行に行きたいと願い星野君の思いを考えることによって, ねらいとする価値に迫りたい。

■ ねらい

友達と信頼し学び合うことの大切さに気付き, 互いに磨き合い高め合うことで, 真の友情を深めようとする態度を育てる。

■ 展開の構想

- ・ 事前アンケートの結果から, 真の友達とはどんな人かを考え, ねらいとする価値への方向付けを行う。
- ・ 資料を読み, 学校へ行きたいか尋ねた星野君の定金君を思う気持ちを想像させる。
- ・ 修学旅行に行けないと定金君から聞き, 6年生最後の修学旅行を大切な友達と楽しみたいものの, 実現する困難さを考えて気持ちが揺れる星野君の思いから, ねらいとする価値を深める。
- ・ 友達が困っているときに助けた経験や, 自分が困っていたときに友達に助けられた経験について振り返り, 真の友情を深めていくためにどのように友達と関わっていくと良いか考える。

■ 判断力・心情・実践意欲を高める工夫

○[中心発問]

「言葉につまりながらも, どんな思いで『一緒に行くんぞ』と言ったのだろう。」という問いで, 大切な友達である定金君を思いやり, 修学旅行に一緒に行けるよう行動することを決心した星野君の心情を考えるようにする。

○[学習形態]

グループ交流で, 定金君の気持ちを真剣に考え, 友達のために行動した星野君についてどう思うかを話し合い, 自分と比較して考えられるようにする。

○[言語活動]

道徳ノートに, 真の友情とはどのようなか記述し, 本時の学びで真の友情に対する自分の考えが変容したことを確かめられるようにする。

■ 道徳科と他の教育活動との関連 (補充 ・ 深化 ・ 統合)

道徳科「学び合い, 高め合う友情を」→道徳科「星野君と定金君」→帰りの会「よいこと見つけ」
友達の定金君を思いやり, 行動を起こした星野君の気持ちを考えることを通して, 互いに信頼して真の友情を深めていこうとする考えを深める。

2 学習指導過程

	基本発問と予想される児童の反応	指導・援助
導入	◇本時の価値への方向付けを行う。 ○星野仙一さんを知っていますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・「仲間」に関するアンケート結果を提示し、ねらいとする価値への方向付けを行う。 ・星野仙一と筋萎縮症の説明
展開 前段	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">真の友情について考えよう。</p> <p>◇ 資料「星野君と定金君」を聞いて話し合う。</p> <p>○星野君は定金君に、どんな気持ちで「毎日学校へ来たいか？」と尋ねたのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日学校へ通えなくてかわいそうだな。 ・きっと、定金君は学校に行きたいと思っているだろう。 ・定金君が、毎日学校へ行きたいと思っているのなら僕にできることをして助けてい。 <p>○言葉につまりながらも、どんな思いで「一緒に行くんぞ」と言ったのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定金君は、修学旅行に行きたいと思っているけれど、自分には行けないと諦めていたのかとは知らなかった。 ・大人が無理と決めているのに説得できるのかな。一緒にいくことは難しいかもしれない。 ・修学旅行に行きたい気持ちの定金君を残して行っては、きっと後から後悔するだろうな。 ・定金君も一緒にないと修学旅行もきっと楽しくない。 ・かけがえのない友達なのだから、どうしても一緒に行きたい。 ・定金君も一緒に行けるように、自分ができることをしよう。 <p>○定金君が修学旅行でうれしそうに話すのを聞いたとき、星野君はどんな気持ちだったのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一緒に修学旅行に行けたから自分も定金君も楽しい。 ・定金君があんなに楽しそうにしているうれしい。 ・修学旅行に行きたい定金君のために諦めなくて良かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主人公の星野君の気持ちに着目して、範読を聞くよう指示をする。「わかるな・すごいな・どうして」と思った箇所に線を引き、発表できるようにする。 ・困っている定金君の気持ちを尊重し、何とかして助けようとする星野君の気持ちを想像させる。 ・定金君に「一緒に行くんぞ」と言ったときの星野君の気持ちについて話し合い、たとえ困難なことでも友達のために協力し、助け合おうとした星野君の気持ちに共感できるようにする。 <p>【深めの発問】</p> <p>★定金君のことを思って行動する星野君と自分を比べて友情についてどんなことを考えるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ交流で、深めの発問について話し合い、星野君が定金君のことを真剣に考え、学び合い磨き合ってきたことについて、自分の友達との関わりと比較しながら考えられるようにする。 ・定金君だけでなく星野君も楽しかったという気持ちを捉えることで、友達の気持ちを考え行動し助け合うよさに気付かせる。
展開 後段	<p>◇友達との関わりについて、自分の生活を振り返り話し合う。</p> <p>○友達が困っているときに助けたこと、自分が困っているときに友達に助けてもらったことはあるか。また、その時どう思ったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私には、Aさんという友達があります。Aさんは話すことが得意ではなく発表でよくつまってしまいます。だけど、そんな時は「焦らなくて良いよ。みんな待っていているからね。」と声をかけています。私がそうするのは、Aさんが怪我をした私を本気で心配してくれる優しいところや、毎日忘れず宿題を出す頑張るところを知っているからです。私は、宿題を毎日出せないことがあるので、Aさんの姿を見て頑張ろうと思います。これからも、そんなAさんと助け合える友達でありたいです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達との関わりに関する具体的な体験を発表し合い、生活をより振り返ることができるようにする。
終末	<p>◇道徳ノートに自分の考えを書く。</p> <p>○今日学んだことから、真の友情とはどのようなものだと思うか。</p> <p>◇教師の説話を聞く。</p>	<p><変容の見届け></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の損得ではなく、互いの気持ちを思いやって行動することが真の友情を深めることに気付き、友達と互いに学び合い、磨き合って行動していこうと考えることができる。